

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800196		
法人名	大和ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 花うさぎ千早		
所在地	〒813-0044 福岡県福岡市東区千早4丁目13番27号	092-674-1800	
自己評価作成日	平成26年01月20日	評価結果確定日	平成26年02月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開設2年目。塩原のグループホームを基本とし、入居者様が安心、安全に生活出来る環境を整えてきました。 目の前に千早中央公園があり、天気の良い日には、散歩や食事会等、いろいろな行事を行っています。 ユニット間の交流スペースでは、2ユニット合同でクリスマスツリーの飾り付けをしたり、自由に利用されています。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

<p>都市開発が進む千早駅周辺は、千早中央公園を中心に、高層マンションと一戸建て住宅ゾーンに整備された公園正面に、4階建て複合型福祉施設の2階に、2ユニットの「グループホーム 花うさぎ千早」がある。開設2年目であるが、代表の福祉に対する熱い思いを職員が理解し、利用者の尊厳を守り、自由であるがままの、暮らしを支える職員の姿は頼もしく、利用者や家族から、「ここを選んで良かった」という深い信頼に包まれている。利便性の良い事業所として、家族の面会も多く、運営推進会議委員が、立ち寄り、餅つきやお茶会に、家族や地域住民が参加し、介護相談も始まり、地域交流の輪が広がっている。また、かかりつけ医による往診体制も整備し、24時間安心出来る医療連携が図られ、利用者や家族の安心に繋がる、「グループホーム 花うさぎ千早」である。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年02月10日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「安心と尊厳のある生活」を提供します。 理念に基づき業務を遂行出来るように努力しています。	ホームが目指す介護の在り方を明示した独自の理念を、台所等見やすい場所に掲示している。職員は理念を理解し常に意識して、利用者が、家庭的な環境の下で地域社会の一員として、安心と尊厳のある生活が出来よう支援に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加や千早中央公園の散歩時に会った方へのあいさつをしたり、交流を深めている。 ・地域夏祭りの参加 ・地域防災訓練の参加 ・地域の方に施設の夏祭りやお茶会、もちつき等に参加していただいている。	ホームの夏祭りやお茶会、餅つきには地域の方や家族が大勢参加し、開設3年目を迎え、地域の一員としての交流を深めている。地域の夏祭りや防災訓練に、利用者と職員が参加したり、ホーム前の公園の散歩時に挨拶を交わす等、日常的な交流も始まっている。また、併設デイサービスに訪した幼稚園児との交流は、利用者の大きな楽しみになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて、事業所の状況報告を行ったり、老人会や民生委員会の方々から意見、相談を聞いて対応するようにしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況報告や活動報告を行い、参加の方々の意見を頂いている。 食事の提供量が多いとの意見に対しては、個々の状態にて提供している。	年6回開催される運営推進会議は、外部の参加委員の目を通して、ホームの現状や取り組みについて、具体的な改善課題を話し合う機会である。ホームの現状報告を受け、参加委員からは、質問や要望、情報、意見等が出され、充実した会議になっている。出された意見は、出来るだけホーム運営に反映させるよう努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターから参加して頂いている。 区役所には運営推進会議や夏祭りの案内を出している。 申請書類等、提出時相談を行っています。	管理者は、ホームの運営状況や課題、困難事例等を行政に相談し、情報提供や指導を受け、連携を図っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの実情を理解した上で、アドバイスを受け、情報交換する等、協力関係が始まっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止資料などを回覧したり、全職員が声かけ、会議、カンファレンス等を行い、話しあっている。	会議や勉強会の中で、身体拘束や虐待に関する問題について職員間で話し合っている。スピーチロックも含めた身体拘束が、利用者には及ぼす影響を理解し、具体的な行為を検証し、職員一人ひとりが自覚して、利用者が安心して暮らせる介護サービスの提供を目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営会議にて認知症に関する勉強会をする。入居者様の個々に合わせて、職員が統一した対応をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを掲示している。入居契約時にご家族への説明を周知しています。	現在、制度利用者がある事から、職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について実務を通して理解している。契約時に、本人、家族への説明を行い、利用者や家族から、制度についての問い合わせや、申請のための要請があった場合は、内容について説明し、申請手続きの方法や、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面、口頭で説明を行い、家族や利用者様と話し合い不安や疑問点のないように努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族や利用者が出席し、外部に意見を伝える機会を作っている。苦情や疑問点は、全職員で話し合い対応をしている。	お茶会の後に家族会を開く等、行事や面会時に家族と話す機会を持ち、利用者の生活状況、健康状態等を報告し、家族の意見や要望を聞き取り、ホーム運営や介護計画に反映させている。また、写真を添付した個別の便りを送付し、家族の安心、信頼に繋げている。玄関に意見箱を設置し、利用者や家族が安心して、要望や苦情が出せる環境を整えている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム運営会議にて職員間の意見の交換を行っている。	毎月、全員参加の内部研修を含めた運営会議を開催し、その後、各ユニットに分かれて、主にカンファレンスを中心としたフロア会議を実施している。会議の中で、かかりつけ医への対応について、職員が活発に意見を出し合い、対応を統一するマニュアル作りに取り組む等、出された意見を反映出来るよう努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の要望や提案を聞き、働きやすい環境整備に努力している。キャリアパスの導入など取り入れている。希望休を聞き、自己のスキルアップの為に研修に行けるようにしている。(有給休暇も利用)		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集に関しては、塩原の施設と並行して積極的に行っている。年齢・性別の制限は設けていない。個々の職員がモチベーションアップ出来るように配慮している。	職員の募集は、人柄や考え方を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は職員の特技(似顔絵書き、掃除、園芸、料理、歌)を活かした役割や勤務体制に配慮し、職員が生き生きと働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。また、職員ロッカーや休憩室を設置し、休憩時間を交代で取り、リフレッシュしながら勤務出来る環境を整えている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・施設内・外部研修等に参加している。 ・会議などで言葉使いや接し方を話し合っている。	外部の研修会に参加し、勉強会の中で報告し、職員全員が利用者の尊厳について学び、職員一人ひとりが利用者への言葉かけ、対応等意識しながら、利用者の人権を尊重する介護サービスの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を発揮させる役割を与え、熱意を見出す。スキルアップへの支援、指導を行っている。施設内の研修の他、認知症実践者研修等、交代で参加させている。年1回、自分で行きたい研修に参加させている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東第4いきいきセンターの事例勉強会に参加したりと交流を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く為、声かけをし、スキンシップをすることにより、不安を取り除くようにしている。統一ケアが出来るように担当者会議にて検討し支援している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、入居者の現状を報告し、又要望を伺っている。ご本人の前では話にくいことは、席を変え話をきくようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族へ入居者の情報を収集している。担当者会議にて支援を周知している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて、家事の手伝いや買い物など日常生活を協力し暮らしている。 ・テーブル拭き、食器拭き等		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族へおたよりを発行している。急変あれば家族へ連絡、報告、相談をしている。面会時、近況を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の方が面会に来られる。本人の希望があれば、家族の協力を得て、自宅付近等への外出を支援していきたい	利用者が長年築いてきた地域社会や人との関係が途切れないよう、家族の意向を聴きながら、利用者の行きたい所に同行したり、友人、知人の面会を受け入れている。ユニット間の利用者のふれあいや、併設事業所(小規模、デイサービス)との交流を行う中で顔馴染みも出来る等、新しい馴染みの関係作りにも取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格・レベルに合わせて一緒に洗濯物を畳んで頂き、コミュニケーションを取っていたにしている。 外出レク、施設内でのレクレーションを実施し仲間づくりを行っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の理由で退所された方にも気軽に相談ができるように支援等に心がけている		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不穏時、不安時は特に気配り傾聴する事で本人の意向の把握に努めている。	利用者のその人らしい暮らしを支えるために、職員はアセスメントを活用し、利用者の思いや意向を聴き取り、実現に向けて努力している。また、意向の表出が難しい利用者に対しては、職員は利用者寄り添い、話しかけ、表情や仕草を見逃さず、利用者の思いに少しでも近づけるように職員全員で努力している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の情報を多く収集出来るように入所前の医療機関やケアマネを連携を取るようになっている。得た情報は記録に残し、職員間で情報を共有している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の性格や気分を把握し、声かけを行い反応を見たりする。利用者に無理のないように援助している		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで職員全員で入居者一人一人について話し合い、意見を介護計画に反映している。	担当者会議に家族が参加し、意見や要望、心配事等を細かく聴き取っている。毎月、職員全員でカンファレンスを実施し、利用者や家族が納得出来る介護計画を、利用者に合わせて3ヶ月から6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医、関係者と話し合い、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば、その都度職員間で話し合い、申し送りにより全員で情報を共有し、日々の介護に反映している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の同行や、お孫さんの結婚式の同行など可能な限り対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方が定期的に来所され、フラダンスや和太鼓等の催しをされる。ディサービスの利用者と交流を図れる環境がある。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医が、月2回のペースで往診している。 急変時は密に連絡をとり、急遽往診される。	5ヶ所の協力医療機関の中から、利用者や家族に選択してもらい、隔週毎の往診と、他科受診の支援に取り組み、利用者が安心して医療を受けられる体制を整えている。また、夜間や急変時の対応についてマニュアル化し、職員が迅速に対応し、それぞれの主治医との関係を築いている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調、心身状態を日々観察し、変化があればその都度、施設内看護師、または、かかりつけ医へ報告し指示を仰いでいる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時、病院関係者に利用者の状態を尋ね情報交換を行っている。 退院時は、退院カンファレンスに参加している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、終末期ケアについての説明をしている。また、重度化した場合には家族、主治医・施設側と何度も話し合いをし、支援につなげている。	契約時に、利用者や家族に、ターミナルケアについて説明し承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と常に連絡を取りながら、主治医も交えて話し合い、今後の介護について方針を確認し職員全員で共有し、利用者にとって、最善の介護サービスが提供出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED・救命講習を全員受講している。 施設内研修実施している。(転倒について)	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設にて防災訓練を実施している。 職員は全員参加し、入居者様が安全に避難出来るように訓練している。	年2回、法人全体の防災訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者を安全に避難させる体制を整えている。夜間、夜勤者のみでの避難誘導の限界を踏まえて、日常的に、併設事業所との連携や、ホームから見える距離にある消防署との協力関係強化を目指している。	電気、水道、ガスが使用出来ない非常災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品、利用者の緊急連絡先、医療情報等の準備が望まれる。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもある入居者様に敬意の気持ちを持ち、言葉使いやプライバシーに配慮するように心がけている。	職員は、経験豊富な人生の先輩として利用者を敬い、丁寧な言葉遣いで、利用者のプライドや羞恥心を傷つけないように配慮し、介護サービスの実践に取り組んでいる。利用者の個人情報の記録は、鍵のかかる書庫で保管し、職員の守秘義務については、管理者が職員に日常的に説明し周知されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持ちを大切にし、自己決定、自己選択が行えるような声かけを心がけている。	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、入居者様の意思やその日の健康状態、天気等に合わせ、楽しく穏やかに過ごせるような支援を努めている。	/	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回、訪問理美容が来所し、希望にてカット、カラー等を施設内の理美容室にて行っている。 外食レク等の外出時は、外出着に着替えて、メイク等したりすることもある。	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けを行ったり、野菜の皮むきを手伝ってもらっている。 お誕生日には、その方の好きなメニューを作って提供している。	料理の下拵えや味見、盛り付け等、利用者には手伝ってもらい、残存能力を引き出しながら食べる喜びに繋げている。管理栄養士の立てた献立に基づき、職員が食材を注文し交代で料理して、心のこもった家庭料理を提供している。利用者職員が会話しながら、同じ食事を同じテーブルで一緒に食べる家庭的な雰囲気を大切にして、利用者一人ひとりが食べる楽しみを味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立を活用し、入居者様に状態にあわせた形態で食事を提供している。 ソフト食、ミキサー食にも対応している。 水分量や食事摂取量をチェックし、一定量が確保出来るように心がけている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行っている。 週1回、訪問歯科の往診ある。(希望者のみ)		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄のリズムの把握に努め、必要に応じて、声かけ誘導、介助を行っている。 朝食後はトイレに座って頂き、排便を促している。	職員は、利用者の排泄チェック表や生活パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、紙オムツ利用の利用者も日中は二人介助でトイレへ誘導し、出来るだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分、食物繊維が取れるように配慮している。 また、体操や運動も取り入れている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個人の希望、タイミングに合わせている。1人1人ゆっくり入浴している。拒否あるときや体調をみて支援している。	基本的に週3日を入浴日としているが、利用者の体調や希望に合わせて、曜日や時間を変更し毎日入ることも可能である。入浴を拒否する利用者には、時間をずらしたり、職員を替えて再度声掛けする等、無理強いないで支援している。また、入浴は利用者と職員が、一対一で話が出来大切な時間と捉え、ゆっくりと時間を取って個々に沿った支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望や体調に合わせて日中も臥床できるように支援している。 季節に応じて、寝具やエアコンを利用し、安眠、休息できるように心がけている。 冬場は床暖房を使用。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付、名前を確認し、配薬し飲み込みまで確認している。服薬時は職員2名にて確認し、誤薬防止に努めている。処方箋は個人ファイルに綴じ込み、目的や副作用を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、その方に合った役割、お手伝いをさせていただいている。(カレンダーめくり、台ふき、小鉢の盛り付け等) すきなレクリエーションに自由に参加して楽しく過ごせるように支援している。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	千早中央公園の散歩、ドライブ等、季節毎に行事を取り入れている。 家族が面会時に散歩等、外出される。	気候の良い日は、ホーム前の公園の散歩を日課とし、テーブルを持ち出して御飯を食べる事もある。スーパーへの買い物やお花見、山笠見物、ホテルでの食事等、利用者の気分転換に繋がる外出の支援に積極的に取り組んでいる。また、家族の協力で、外食や買い物に出かけて利用者の生きがいに繋げている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入居者はお金の管理をすることが難しく、買い物等は、家族と一緒にされている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、随時対応している。 家族等の電話は取次、対応している。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア・交流スペースに、椅子やテーブルを置き、自由に過ごせる様にしている。ベランダには、季節の花を植えている。フロアには、季節の壁面飾りや装飾にて飾り付けをしている。	4階建て複合施設の2階部分の広いフロアに、左右対称の2ユニットのホームである。リビングルームの大きな窓越しに、目の前には千早中央公園があり、ゲートボールに興じる人や子ども達、犬の散歩の様子を眺める事ができる。料理の音や匂いが漂い、懐かしい歌が流れる中、利用者はぬり絵等してゆったりと過ごしている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファ、テーブル、椅子、畳にて自由に過ごされています。気のあった入居者同士で談話される。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた家具や仏壇等を持ってこられている。写真をかざったり、している。湯呑み、お箸もご自分の物を使用されている入居者もいる。	利用者が長年使い慣れた筆筒や机、椅子や仏壇、家族の写真や生活必需品等を、家族の協力を得ながら持ち込んでもらっている。時々家族と協力して模様替えも行い、利用者が落ち着いて安心して暮らせるように配慮した居室になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように、赤い花を飾り目印にしている。居室の入口には、似顔絵を飾り、ご自分の居室が分かるようにしている。		